

世界遺産「富士山」の後世継承に向けて

世界遺産ニュースレター NEWS Letter

vol.29

発行／静岡県世界遺産センター整備課

〒420-8601 静岡市葵区追分9-6 TEL.054-221-3657 FAX.054-221-3757
http://www.pref.shizuoka.jp/bunka/ok-120/index.html
e-mail wncenter-seibij@pref.shizuoka.jp

特集

今夏の富士山登山者数と保全協力金の状況

世界遺産ジャーナル

富士山と中国の泰山との交流

構成資産紹介

富士山域(ふじさんいき)

研究員コラム

富士山への登拝と巡礼路

vol.
29
November, 2015

研究員
コラム

富士山への登拝と巡礼路



を中核として周辺に参詣者を受け入れるための宿坊が営まれていきます。この宿坊の経営者が、例えば大宮口の場合は富士山本宮浅間大社の社人衆、村山口の場合は富士山興法寺の修験者、吉田口の場合は北口本宮富士浅間神社の御師であったりと、職掌こそ違えども実際は、ほぼ同種の活動を行っていました。

富士山への登拝を語る上で、代参は大きな意味をもっています。代参とは、遠方の寺社を参拝する際に、講などの特定の信仰をもつ集団の中から代表者をたてる制度です。富士山を信仰する集団である富士講においても代参が行われましたが、

山道が新たに整備されていった影響で、麓から頂上へと登拝する旧来の登山道は一部利用されなくなり、廃れていきました。こうした合理的な登山の発展は、富士山への信仰に対する意識を希薄にした部分もあるでしょう。富士山の登山道や巡礼路に関する調査研究は、単なる経路をつなぐ作業ではなく、現在失われてしまった、または見えにくくなってしまっている富士山への信仰を、現在の我々まで、再度つなげる作業になるものと思います。(世界遺産センター整備課 准教授 大高康正)

古来、火山活動を繰り返す富士山は、山麓から山頂を仰ぎ見て崇拝する遥拝の対象となってきました。その後、修験者と呼ばれる宗教者たちは、富士山を山岳修行の地として開削し、直接富士山への登拝を志すようになっていきます。山岳修行の場となった富士山に登拝するためには、駿河国側には大宮・村山口(表口)、須山口、須走口が、甲斐国側には吉田口と川口(船津口)が、中には既に開かれていたようです。富士山が山岳霊場として発展していく過程には、各登山口それぞれに拠点となる集落が形成されていきました。こうした集落には浅間神社が祀られており、そこ

こうした制度をとることで、庶民の直接の登拝を容易にしています。また富士山に登拝するだけに留まらない、様々な巡拝のバリエーションも生まれていきました。例えば、富士山頂の噴火口周囲をめぐる「御鉢めぐり」、富士山の植生限界とされる標高2100〜2800m付近を横に一周する「御中道めぐり」、富士講で教義上の開祖としている長谷川角行が修行した山麓周辺の霊地を巡る「八海めぐり」などです。こうした場所は多く富士山の構成資産に含まれており、それぞれをつながる道は人々の流れを示すこととなります。

近代以降は各登山口において自動車ルートの登

受賞報告

上記コラムを執筆した大高康正准教授が、著書『富士山信仰と修験道』(岩田書院)で、日本山岳修験学会第24回(2015年度)学会賞を受賞しました。日本山岳修験学会は、昭和55年設立で「日本人の信仰の原点である山岳信仰ならびに修験道を多方面から調査・研究し、その学術的発展を図ると共に社会に資することを目的とした学会」です。

大高准教授のコメント「拙著『富士山信仰と修験道』が、今年度の日本山岳修験学会の学会賞をいただきました。但し、富士山の歴史や信仰はまだまだ明らかになっていない部分が多くありません。今後引き続き調査研究を行い、その成果を皆様に発信できればと思います。」



今夏の富士山八合目における登山者数は、約23万4千人で昨年の夏期登山者数と比較して約5万1千人減少しました。(昨年比18%減)

そのうち静岡県側の登山者数は、約9万8千人と昨年よりも約1万7千人減少しています。

これは、昨年の御嶽山の噴火や箱根山をはじめとした火山活動の影響により、富士山においても登山を控える傾向があったと推定されることや、8月中旬以降、天候に恵まれない日が多かったことなどが原因として考えられます。

富士山保全協力金については、43,792人の方から43,455,701円の御協力をお願いすることができました。昨年度との比較では、協力者数で237人の増、金額では565,507円の減となっています。協力率は5.8ポイント増の46.7%となりました。

今夏の

富士登山者数と 保全協力金の状況

■富士山登山者数の状況(7月1日～9月14日)

区分	H27	H26	増減	前年比率
静岡県計	97,630人	114,547人	▲16,917人	85.2%
富士宮ルート	57,912人	64,492人	▲6,580人	89.8%
御殿場ルート	15,713人	16,963人	▲1,250人	92.6%
須走ルート	24,005人	33,092人	▲9,087人	72.5%
山梨県吉田ルート	136,587人	170,947人	▲34,360人	79.9%
計	234,217人	285,494人	▲51,277人	82.0%

【環境省赤外線カウンターによる計測】

■富士山保全協力金(7月10日～9月10日:速報値)

	H27	H26	差
協力金額	43,455,701円	44,021,208円	▲565,507円
協力者数(A)	43,792人	43,555人	237人
登山者数(B)	93,761人	106,547人	▲12,786人
協力率 (C)=(A/B)	46.7%	40.9%	5.8ポイント



協力金を活用したヘルメット配備



協力金受付の様子

皆様からいただいた協力金は、山小屋バイオトイレの改修などの富士山の環境保全や、万が一の噴火に備えた山小屋へのヘルメット等の配備といった安全対策に活用させていただきます。

御協力いただいた皆様はこの紙面をお借りしてお礼申し上げますとともに、来夏も富士登山をされる方には、引き続き、富士山保全協力金に御協力くださるようお願いいたします。

世界遺産 ジャーナル

テーマ

「富士山と中国の泰山との交流」

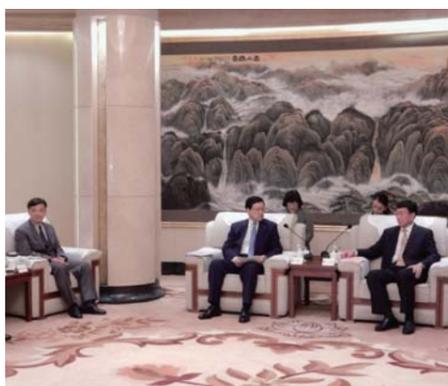
富士山と中国の泰山との友好交流は、2007年(平成19年)に中国の温家宝首相が日本の国会で「日中両国国民の友好の土台は、あたかも泰山と富士山のよう」に、決して動揺することはありませんと演説したのを契機に、泰山を擁する泰安市と日本富士山協会が友好山提携を締結したことから始まり、毎年交互に訪問団を派遣してきました。



泰山の山頂(玉皇頂)付近
(7,777段の石段が続いている)

日中情勢の悪化の影響を受け平成23年を最後に友好交流が途絶えていましたが、このたび、9月19日からの4日間、4年ぶり3回目となる訪中が実現しました。

今回の訪問では、難波喬司副知事を含む日本富士山協会会員等20名からなる訪問団(団長・福重隆一富士急行(株)専務)が、王雲鵬泰安市長を表敬するとともに、今後の交流促進に向けた協議を行いました。その結果、来春、副市長を団長とする泰安市訪問団が富士山地域を訪れる予定となりました。



王雲鵬泰安市長表敬
(左から難波副知事、福重団長、王市長)

今後、両山地域の様々な分野における交流を推進していきます。

世界遺産 構成資産紹介

富士山域

ふじさんいき

富士山への信仰は、富士山のもつ神秘的な姿・かたちと不可分な関係にあります。奈良時代から平安時代にかけて富士山の火山活動が活発化すると、荒々しい火の神として噴煙を撒き散らす、近づき難い神としての姿が意識されたものと思われまます。こうした富士山の火山活動に対して、鎮火の祈りを行うため祠堂を建て、荒ぶる火の神・浅間大神を勧請し、常時祭祀者を置くようになります。富士山は自然神として、山腹の遙拝所において拝されており、山麓の湖水や湧水池周辺でも祭祀されるようになっていきました。

このような背景を持つ世界文化遺産「富士山」信仰の対象と芸術の源泉」の構成資産のひとつに、「富士山域」があります。富士山が持つ神聖性の境界のひとつである「馬返」より上方の1500mの区域を中心として、芸術作品の源泉となった二つの展望地点(本栖湖、三保松原)から、山頂及びその左右の稜線の広がりを見ることが出来る範囲を含んだ部分を対象としています。このような背景から、構成資産の「富士山域」は非常に広範囲な部分が含まれていますので、さらに9つの構成要素(1・1山頂の信仰遺跡群、1・2大宮・村山口登山道、1・3須山口登山道、1・4須走口登山道、1・5吉田口登山道、1・6北口本宮富士浅間神社、1・7西湖、1・8精進湖、1・9本栖湖)に分けています。

